

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	
平成 31 年度入学式学長式辞	2
平成 31 年度入学者数	3
平成 31 年度医学博士授与者（前期）	4
○ 人 事	
新任教授等・新任准教授等・新任講師等	5
新任あいさつ	6
・副理事長（復興・国際担当）兼 ふくしま国際医療科学センター長 兼 ふたば救急総合医療支援センター長	齋藤 清
・理事（医療・臨床教育担当）兼 副学長（臨床教育担当）兼 附属病院長	鈴木 弘行
・会津医療センター副センター長兼 附属病院長	大田 雅嗣
・生化学講座 教授	西田 満
○ 諸 規 程 改 正	
平成 31 年 2 月から令和元年 7 月までの主な諸規程の制定、改正及び改廃関係	8
○ 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会	
役員会	13
経営審議会	13
教育研究審議会	14
医学部教授会	14
看護学部教授会	15

学 事

■平成 31 年度 福島県立医科大学入学式

学長式辞

福島県立医科大学 学長 竹之下 誠一

本日ここに、福島県知事様、福島県議会議長様のご臨席と、保護者の皆様のご列席のもと、平成 31 年度福島県立医科大学入学式を挙げてまいりましたことは、本学にとってこの上ない喜びであります。

ただいま入学を許可された医学部 130 名、看護学部 84 名、大学院医学研究科 40 名、看護学研究科 7 名の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。同期となる皆さんが互いに切磋琢磨し、将来、共にその志が実現されるよう、教職員一同、しっかりサポートしていきたいと思います。

さて、皆さんが本学に入学するにあたり、まず最初に、本学の担う使命と、本学で医療を学ぶ意味について一人一人にしっかり理解していただきたいと思います。2011 年 3 月 11 日、福島は未曾有の災害に見舞われました。県内唯一の特定機能病院、そして、医師養成教育機関である本学は、震災直後いち早く「健康と医療の面から福島の復興を支える」と自らの新たな使命を宣言し、教職員が一丸となって総力を挙げてこの使命の完遂に当たることを決意しました。以来、今日（こんにち）に至るまで、本学は片時も休むことなく、県民の方々、被災者の方々の健康を見守り、支え続けています。ここにいる多くの皆さんにとっては、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故は、小学生の頃の出来事であり、「よく知らない過去のこと」という意識が強いかもしれません。しかし、本学にとって震災と原発事故は、いまだに現在進行形なのです。

その結果本学は、見習う前例などない厳しい事態に向き合い続けることになりました。試行錯誤の過程ではお叱りを受け、批判を受けることもあります。その都度、私たちは悩み、苦悶し、自問自答し、将来の良い前例となるべく行動しようと努めています。このように本学は、他大学とは違い、不安を抱える県民を支え続け、この災害と惨禍に対して最前線に立ち続けることを宿命づけられた大学なのです。

そういう大学で学ぶ皆さんは、震災、原発事故、その被災者の方々の悲しみ、苦しみ、悔しさと、自分自身との間に接点や課題を見出し、真摯に考え、行動すること

が求められます。自分は知らない、関係ない、という態度は許されないこと、福島の復興の在り方に常に問題意識を持ち続けること、の 2 つを肝に銘じ、本学での学生生活を始めてください。

さて、皆さんは「令和」元年入学の大学生、大学院生となりました。新時代を担う即戦力としての期待が、おのずと皆さんに寄せられています。そして、新しい時代のスタートは、新たな希望をもたらすものと期待したいところですが、現実には、社会そのものが不安定さを増しています。温暖化といった気候変動や、イギリスの EU 離脱、アメリカの一国主義化、宗教や人種対立による難民の急増など、戦後、人類が英知を傾けて築いてきた安定が揺らぎ始めています。そのような時代に求められる人材はどのような人材でしょうか。いくつかの場面を通して、求められる人材像を示していきます。

まず、皆さんの大学における学びの姿勢についてです。

大学では、既存の知識を覚えることは、学びの準備段階に過ぎません。もちろん医療のプロフェッショナルになるためには、覚えなければならない膨大な知識があります。しかし、皆さんが覚えなければならない知識は、たちまち時代遅れとなるのです。実は、皆さんが大学で真に学ばなくてはならないことは、時代遅れとなる知識を、常に、適切にアップデートする方法を、徹底的に考え、身に付けることなのです。

そして、これがこれからの時代に求められる人材に必要な第 1 の要素でもあります。

次に、社会への関与についてです。

今、日本もまた、世界と同じく大きな転換期に差し掛かっています。過去には世界に冠たる経済大国だった日本も、今やアジア唯一の先進国とは言えなくなりました。今後、日本の労働人口は減少し、急速に高齢化していきます。いやがおうにも、世界における競争力が落ちていく、というこれまでに経験したことの無い事態に日本は直面しています。いかに国際競争力低下のスピードを緩やかにするかは、これから生きる皆さんへの課題ともいえます。この課題に向き合うために必要なのが、他者や過去に学ぶという姿勢です。もちろん、直面する課題の解決策がそこにそのまま転がっていることはありません。しかし、常に他人や他国の取り組み、あるいは歴史における対応を学び、そこから現在の課題解決のヒントを見出し、知力を振り絞って考える力が私たち一人一人に求められています。これがこれから求められる人材に必要な第 2 の要素です。

次いで、医療に携わる姿勢についてです。

ここまで述べてきたような社会の変化に関心はない、という人もいるかもしれません。しかし、社会の在り方

に無関心のまま、医療に携わることはできません。社会の変化はそのまま私たちを取り巻く医療環境も変えているからです。労働時間に対する意識の変化は、医療人の働き方を変えていくでしょう。都市化は慢性疾患の増加を招き、これからの医療を治療主体から予防へと大きくシフトさせていくだけでなく、病院完結の医療から地域連携の医療への変化を促すはずで、人工知能技術が医療の分野に進出し、医療人の役割も変わってくるかもしれません。医療のパラダイムシフトが起きようとしている中で、皆さんは、これからどのような医療人を目指すのか、自ら考え抜くことが求められます。

このように社会の動きを見据え、深く洞察する力を持つことが、これから求められる人材に必要な第 3 の要素といえるでしょう。

震災や原発事故からの復興、大学における学びの本質、国際競争力の維持、医療を取り巻く環境変化への対応、いずれにも共通して求められるのは「考える力」を持つ人材です。私たちがこれからの社会で生き残るために持ちうる、最大の武器が「考える力」だ、ということもできます。

では、どのようにして考える力を鍛えるのか。その方法はいろいろありますが、重要なのは、より多くの多様な価値に触れることです。自分にはない考え方、別の切り口から見た事象、異なる立場からの主張、宗教的差異、文化的習慣の違いなど、お互いに優先する価値の違いを、新たな発見として楽しみ、理解に努め、問題意識を持つことから思考は始まります。世間では課題解決のためのノウハウがクローズアップされがちですが、課題を見出す力の重要性を忘れてはなりません。なぜなら、問（とい）なしに思考は生じないのですから。

現状を正確に把握し、課題を抽出し、感情に流されることなく、客観的、論理的に考え、異なる価値観をすり合わせ、対話を促す。そういうプロセスを理解し、実践できる者こそが、これからの日本や医療界に求められる人材像であろうと考えます。鍛え抜いた考える力、つまり筋肉質の思考力は、いかなる逆境においても必ず自らを救い、社会に多大な貢献をもたらすものと信じています。

特に学生時代は、人生の中において最も多様な価値に触れるチャンスがあります。言い換えれば、最も思考を深めることが出来る時期とも言えます。新しい時代を担うメインプレーヤーとして、筋肉質の思考力を持つ医療人となることを期待し、皆さんへの祝辞といたします。

皆さんの健闘を祈ります。

■平成 31 年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生 130 名

	男	女	計
県内	30 名	11 名	41 名
県外	60 名	29 名	89 名
計	90 名	40 名	130 名

② 看護学部新入生 84 名

	男	女	計
県内	2 名	60 名	62 名
県外	2 名	20 名	22 名
計	4 名	80 名	84 名

③ 大学院新入生 47 名（4 月入学）

	男	女	計
医学研究科 （博士）	21 名	9 名	30 名
医学研究科 （修士）	3 名	2 名	5 名
医学研究科 （共同・修士）	1 名	4 名	5 名
看護学研究科 （修士）	0 名	7 名	7 名
計	25 名	22 名	47 名

■平成 31 年度医学博士授与者(前期)

氏 名 学 位 論 文 名

佐藤 勢	Predicting Falls from Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia in Elderly People Residing in Facilities (施設に入所している認知症高齢者の行動・心理症状は転倒の予測因子になりうるか)
大山 翠	Biological Role of Site-specific O-glycosylation in Cell Adhesion Activity and Phosphorylation of Osteopontin (オステオポンチンの細胞接着活性とリン酸化における部位特異的 O-結合型糖鎖修飾の生物学的役割)
遠藤 翔太	Preventive measures and lifestyle habits against exertional heat illness in radiation decontamination workers (除染作業員における労作性熱中症に対する予防対策と生活習慣)
小島 有里子	Characteristics of facial expression recognition ability in patients with Lewy body disease (レビー小体病患者の表情認知機能の特徴)
國分 知樹	The telomerase plays a pivotal role in collateral development under ischemia by suppressing aging-induced production of oxidative stress, expression of p53 and pro-apoptotic proteins. (テロメラーゼは加齢に伴う虚血後の酸化ストレスの増加、p53 の発現、アポトーシスを抑制することで側副血行路発達に重要な役割を果たす)
藤宮 剛	Late Gadolinium Enhancement Predicts Improvement in Systolic Function after Aortic Valve Replacement in Patients with Severe Aortic Stenosis (ガドリニウム遅延造影は重症大動脈弁狭窄症における大動脈弁置換術後の収縮能改善の予測に有用である)
佐竹 秀一	Non-invasive continuous blood pressure monitoring using microelectromechanical system technology (MEMSを使用した、非侵襲的持続血圧モニタリング)
細野 敦之	Effects of Propofol on the mRNA Transcript and Protein Expression Levels of 石井 佳世子 CB1 Receptor (プロポフォールの CB1 受容体 mRNA 転写物量とタンパク質発現量に及ぼす影響)

石井 佳世子	Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan (夫婦を対象とした妊娠期育児支援プログラムの参加者の特徴と精神的健康指標の変化)
氏家 大輔	KRT17 as a prognostic biomarker in stage II colorectal cancer. (stage II 大腸癌における予後予測バイオマーカーとしての KRT17)
長岡 敦子	The investigation of ALDH4A1 expression in the postmortem brains from patients with schizophrenia-genetic neuropathology (統合失調症死後脳における ALDH4A1 についてのジェネティックニューロパソロジー)
前田 創	Modeling virus-associated acute encephalopathy pathophysiology using an in vitro blood-brain barrier model and dynamic evaluation of endothelial cell injury (血液脳関門モデルを用いた in vitro ウイルス関連急性脳症病態の作製と血管内皮細胞障害の動的評価)
山田 昌幸	Histological validation of cerebral white fiber fixation methods. (白質解剖のための脳処理法の組織学的検証)
蓬田 翔太	Involvement between social defeat stress and pain-related behavior in an application of the nucleus pulposus rat model (ラット髄核留置モデルにおける疼痛関連行動と社会的ストレスとの関与)
菊池 智宏	Characterization of tumor-infiltrating immune cells in relation to microbiota in colorectal cancers (大腸癌における腫瘍浸潤免疫細胞の特徴と腸内細菌叢の関係)
山本 晃裕	皮膚組織灌流圧(skin perfusion pressure)は混合血酸素飽和度の代用となりうるか?
平井 亨	Epidemiological study on cervical cord compression and its clinical symptoms in community-dwelling residents (地域住民における頸髄圧迫と臨床症状の疫学調査)

- 石川 真郷 Anti-fibrotic effect of CCR2 antagonist on experimental murine scleroderma induced by bleomycin (ブレオマイシン誘導皮膚硬化モデルにおける CCR2 拮抗薬の抗線維化効果)
- 黒見 洋介 ヒト由来悪性髄膜腫細胞 HKBMM の過剰な遊走性に関わる IGF2BP1 の役割
- 大原 美希 多嚢胞性卵巣症候群患者子宮内膜と子宮内膜培養細胞におけるアンドロゲン受容体発現にメホルミンが与える影響についての検討
- 中山 千尋 Lingering health -related anxiety about radiation among Fukushima residents as correlated with medeia information following the accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant (福島住民の残存する放射線健康不安と福島第一原子力発電所事故後のメディア情報の関連)
- 岩楯 兼尚 Population Characteristics and Progressive Disability in Neurofibromatosis Type2 (神経線維腫症2型の日本における現状と悪化因子の解明)
- 今牧 理恵 Glycosylation controls cooperative PECAM-VEGFR2-β3 integrin functions at the endothelial surface for tumor angiogenesis (腫瘍の血管新生は糖鎖依存的な PECAM-VEGFR2-β3 インテグリン複合体機能で調節される)
- 松本 善幸 Predicting Factors of Transmural Thermal Injury after Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation (クライオバルーンによる肺静脈隔離術後貫壁性熱傷害の予測因子についての検討)
- 堀 有伸 Psychiatric Outpatients After the 3.11 Complex Disaster in Fukushima, Japan (福島県における3.11 複合災害後の精神科外来の受診動向について)
- 清水 雅子 Change of Tinnitus with Xenon Phototherapy of the Stellate Ganglion (キセノン光を用いた星状神経節近傍照射療法による耳鳴苦痛度の変化)

人 事

(令和元年 7 月 1 日現在)

○新任教授等

- 採用 31.4.1 運動器骨代謝学講座 教授 山田 仁
- 採用 31.4.1 総合科学教育研究センター 教授 本多 創史
- 採用 31.4.1 新医療系学部設置準備室 教授 高橋 規之
- 採用 31.4.1 ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授 西郡 秀和
- 採用 31.4.1 医療研究推進センター 教授 小早川 雅男
- 昇任 31.4.1 新医療系学部設置準備室 教授 五百川 和明
- 採用 31.4.1 (会)総合内科学講座 医監 山中 克郎
- 採用 元.7.1 生化学講座 教授 西田 満
- 採用 元.7.1 総合科学教育研究センター 教授 安田 尚子
- 採用 元.7.1 放射線医学県民健康管理センター 特命教授 大須賀 健一

○新任准教授等

- 昇任 31.3.1 神経内科学講座 (現 脳神経内科学講座) 講師 榎本 雪
- 昇任 31.4.1 公衆衛生学講座 准教授 岩佐 一
- 昇任 31.4.1 消化器内科学講座 准教授 高木 忠之
- 昇任 31.4.1 脳神経内科学講座 准教授 小林 俊輔
- 昇任 31.4.1 感染制御医学講座 准教授 仲村 究
- 昇任 31.4.1 ふたば救急総合医療支援センター 准教授 渡邊 和之
- 採用 31.4.1 健康増進センター 特命准教授 吉本 雅世
- 採用 31.4.1 (会)臨床医学部門 科部長 鈴木 重行

○新任講師等

- 採用 31.4.1 糖尿病内分泌代謝内科学講座
講師 待井 典剛
- 採用 31.4.1 放射線腫瘍学講座
講師 吉本 由哉
- 採用 31.4.1 生活習慣病・慢性腎臓病(CKD)
病態治療学講座 講師 菅野 真理
- 昇任 31.4.1 整形外科学講座
講師 加藤 欽志
- 昇任 31.4.1 泌尿器科学講座
講師 赤井畑 秀則
- 昇任 31.4.1 総合周産期母子医療センター
講師 郷 勇人
- 昇任 31.4.1 放射線医学県民健康管理センター
講師 中野 裕紀
- 採用 31.4.1 (会)漢方医学講座
科長 畝田 一司
- 採用 31.4.1 (会)小腸・大腸・肛門科学講座
科長 根本 大樹
- 昇任 31.4.1 (会)整形外科・脊椎外科学講座
科長 富永 亮司
- 採用 元.5.1 疫学講座
講師 大平 依里
- 採用 元.6.1 プログレッシブDOHaD研究講座
講師 中嶋 正太郎
- 昇任 元.6.1 神経精神医学講座
講師 後藤 大介
- 昇任 元.7.1 基礎病理学講座
講師 杉本 幸太郎

■新任あいさつ

ふくしま国際医療科学センター長就任御挨拶



副理事長(復興・国際担当)兼
ふくしま国際医療科学センター長 兼
ふたば救急総合医療支援センター長
齋藤 清

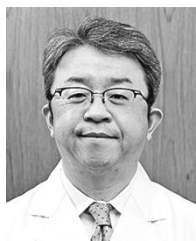
4月に谷川攻一先生の後任として、副理事長(復興・国際担当)、ふくしま国際医療科学センター長、ふたば救急総合医療支援センター長を拝命しました。

ふくしま国際医療科学センターでは、県民の健康を見守り、先端研究と産業復興を推進し、高度医療を提供するために、5つのセンター(放射線医学県民健康管理センター、先端臨床研究センター、医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター、健康増進センター、甲状腺・内分泌センター)と2つの部門(先端診療部門、教育・人材育成部門)が事業を推進しています。センター長として事業の進捗管理を進めてまいります。

ふたば救急総合医療支援センターでは、福島県ふたば医療センター附属病院に対する医師派遣と遠隔診療支援、多目的医療用ヘリの運航支援、双葉地域住民等への在宅医療や啓蒙支援を行なっています。支援センター所属および支援講座の先生方と協力し、ふたば医療センター附属病院の谷川院長および職員の皆様と課題を共有して、双葉地域の復興を医療面から支えてまいります。

また、山下俊一国際担当副学長のご指導により、本学に国際連携戦略本部および国際交流センターが立ち上がりました。本学の国際交流・連携・協力活動に対応できる学生および教職員を育成し国際水準の研究を行うために、国際交流事業に関わる業務の調整を進めてまいります。

これら全てが今まで経験のなかった業務内容であるため戸惑っておりますが、皆様のご協力を得て本学と福島県の発展のために全力で務めます。ご支援ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い致します。



附属病院長就任ご挨拶

理事（医療・臨床教育担当）兼
副学長（臨床教育担当）兼 附属病院長

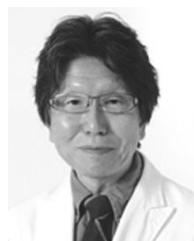
鈴木 弘行

2019年4月1日付けで病院長を拝命いたしました鈴木弘行です。

私は平成2年（1990年）に本学を卒業し、直ちに外科医として研修を開始しました。研修時代は県内各地の病院で地域医療を学ばせていただきました。研修後には専門を呼吸器外科に定め、肺癌を中心とした胸部の腫瘍性疾患に対する外科治療、集学的治療を行って参りました。平成28年には当院の副病院長にご指名いただき、3年間にわたり貴重な経験を積ませていただきました。多くの経験のなかでも、理事長直命でもありました経営改善推進チームでは、出来ない、やらない、ではなく、実行ありきで、より良く実行するにはどうするかを皆で考えることができました。最大の収穫は、この活動が病院職員の皆様の自信に繋がったことと考えております。これらの貴重な経験をもとに、これからも私なりに病院運営に関わらせて頂ければ幸いです。

当院には毎日約1500人の外来患者さんが受診され、日々約600名を超える患者さんが入院されています。私達は患者さんの病気を治療することはもちろん、傷ついた心とも真摯に向き合い、寄り添っていきたくと考えております。当院の基本理念は「健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩む」ことであり、病院の合言葉は「誰からも選ばれる明るい病院、みんなが集まるみんなのための病院」です。これらの理念を実践するために、約600名の医師、約870名の看護師、約500名の技師、事務職員の皆様と共に力を合わせて、患者さんのため、当院の発展のために尽くして参ります。

今後とも厳しいご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしく申し上げます。



会津医療センター 附属病院長就任ご挨拶

会津医療センター副センター長兼
附属病院長

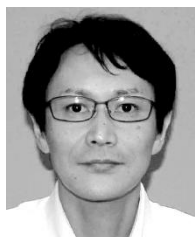
大田 雅嗣

2019年5月20日付で会津医療センター副センター長兼附属病院長を拝命いたしました。棟方充病院長が道半ばでこの4月26日に御逝去され、後任としての重責に身の引き締まる思いです。

2010年4月に旧県立会津総合病院に会津医療センター準備室が設置され赴任した時から、棟方先生には新病院の組織作り、病院運営についてご指導いただき、元病院長の鈴木啓二先生の指揮のもと、近隣の医療機関との連携をはかり、専門性を生かした高度先進医療を提供することにより、会津で完結できる医療を実践してまいりました。さらに患者支援センター、看護専門外来の開設等で地域の方々に対してよりきめ細やかなサービスが提供できるようになりました。また会津地域の皆さまの健康増進・健康長寿のため、院内での医療スタッフによる健康講座、公民館・集会所での出前講座を数多く開講し、好評をいただいております。さらに会津の文化・風土を生かした産学協同の取り組み、IT社会を見据えた他大学との医用工学に関する共同研究を推し進めてまいります。

当院は2013年5月11日に開院し7年目に入りました。今後も当センターの各診療科・部門が最善の医療を提供してまいります。人口減少・高齢化の問題に直面した状況での地域の医療のあり方を皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

「地域医療の福島モデルを創生する」という棟方先生の意思を全職員で受け継ぎ、会津医療センターをさらに発展させるため、「専門的医療の提供」、「経営の安定化と投資」、「会津圏域の特性を生かした地域連携」、「医療人の育成」、「職場環境の充実」をキーワードに、全職員が誇りを持って働くことができる病院運営を心がけます。これからも会津医療センターをよろしく願いいたします。



教授就任ご挨拶

生化学講座 教授
西田 満

令和元年7月1日付けで生化学講座の主任教授を拝命いたしました西田 満(にした みちる)と申します。私は秋田県横手市で生まれ育ち、山形大学理学部を卒業した後、北海道大学大学院地球環境科学研究科の修士課程と同薬学研究科の博士課程に進み、博士課程の間は愛知県岡崎市の基礎生物学研究所で研究をしておりました。

その後、東北大学大学院生命科学研究科とオランダ癌研究所でのポストドクを経て、神戸大学医学部の助手、助教、准教授として約 15 年医学教育・研究に携わり、そしてこの度、様々なご縁と多くの方のご支援、そして運のおかげで、本学に勤めさせていただくことになりました。

神戸大学では免疫学や生化学などの講義・実習を担当し、特に学生の論理的思考能力、問題提起能力、解決能力の育成に力を注いできました。また、臨床分野から多くの大学院生を受け入れ研究指導を行ってきました。この15年間は医学教育の重要性を肌で感じる事ができ、医学部を経験していない私にとってとても貴重な経験となりました。

福島医大では生化学を担当しますが、生化学は生命現象を扱う全て医学分野の基礎であり、それを正しく理解し応用することは、生命現象の理解に必要なだけでなく、病気の診断や治療方針の決定においても重要です。私の教育における使命は、学部のはじめにしっかりと生化学の基礎知識と生化学的なものの見方・考え方を習得させ、さらに学生の基礎研究に対する興味を引き出すことで、将来を担う基礎医学研究者やクリニシャン・サイエンティストを養成することと考えております。

研究面では、がんの浸潤・転移の分子機構解明を目的に、がん細胞とそれを取り巻くがん微小環境における細胞内あるいは細胞間のシグナル伝達機構について研究を行っていきます。福島医大でも臨床分野の先生方と交流させていただきながら独自のがん研究を

展開していきたいと考えております。皆様方のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

諸規程改正

■平成31年2月から令和元年7月までの主な諸規程の制定、改正及び改廃関係

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月1日施行)
別表第1(第7条関係)の附属病院内部組織「臨床研究センター」事務分掌に、「医行為を伴う臨床研究の実施に関する事」が追加された。

○「公立大学法人福島県立医科大学特定調達契約事務取扱細則」の制定について

(平成31年2月1日制定・平成31年2月1日施行)
日本国と欧州連合との経済連携協定の発効に伴い、政府調達の適用を受ける本学の契約方法等に対応する必要があることから、現行の契約細則の特例規程として定められた。

○「公立大学法人福島県立医科大学准職員及び非常勤職員給与規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月5日施行)
県に準じて通勤手当及び宿日直手当の手当額等が改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月6日施行)
宿日直手当額が改正された。(第27条)

○「公立大学法人福島県立医科大学病院助手就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月6日施行)
宿日直手当額が改正された。(第28条)

○「公立大学法人福島県立医科大学専攻医就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月6日施行)
宿日直手当額が改正された。(第29条)

○「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月6日施行)

宿日直手当額が改正された。(第26条)

○「福島県立医科大学附属病院総合医療情報システム運用管理内規」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月6日施行)

別表1 利用者の資格区分の職種名に管理栄養士が追加された。

○「福島県立医科大学放射性同位元素等安全管理委員会設置要綱」の一部改正について

(平成29年4月20日制定・平成31年2月20日施行)

専門部会の設置についての事項が追加された。

○「福島県立医科大学放射線防護・安全管理専門部会設置要綱」の制定について

(平成31年2月20日制定・平成31年2月20日施行)

放射線医療における放射性影響と防護のあり方について専門的立場から検討、助言を行うため設置された専門部会の運営に関して、必要な事項が定められた。

○「公立大学法人福島県立医科大学附属病院未承認医薬品評価委員会設置要綱」の一部改正について

(平成29年3月1日制定・平成31年2月25日施行)

本要綱の施行後、最初に任命される委員の任期が平成31年3月31日までに改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学附属病院高度管理医療機器・高難度新規医療技術評価委員会設置要綱」の一部改正について

(平成29年3月1日制定・平成31年2月25日施行)

本要綱の施行後、最初に任命される委員の任期が平成31年3月31日までに改正された。

○「福島県立医科大学大学院看護学研究科修士学位論文審査内規」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月27日施行)

副指導者の人数を明確にするとともに、「別紙様式5 修士論文審査申請書」に主指導者及び副指導者の承認印が設けられた。

○「福島県立医科大学大学院看護学研究科履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年2月27日施行)

別表1(第2条関係)の授業科目が変更された。

○「福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター教員適任者資格審査委員会規程」の一部改正について

(平成27年4月1日制定・平成31年3月1日施行)

健康増進センターに所属する特命教授等に適用する就業規則が明確化された。(第8条第2項)

○「研究者データベースシステム取扱要綱」の一部改正について

(平成18年11月9日制定・平成31年3月1日施行)

研究者の新規登録、変更、抹消の際には、「ネットワークシステムアカウント申請書」を用いて申請すること等が改正された。

○「福島県立医科大学情報ネットワークシステム利用要綱」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年3月1日施行)

第2条(利用資格)に規定する「センター長が認めるもの」として、大学院の「研究生」が加えられる等が改正された。

○「福島県立医科大学放射性薬剤委員会規程」の一部改正について

(平成28年4月1日制定・平成31年3月8日施行)

委員会に申請する際に作成する書類(第6条第2項)等が改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学契約等審査委員会設置要綱」の制定について

(平成31年3月8日制定・平成31年3月8日施行)

法人が締結する契約の適正な履行に関する審査を行う委員会が設置され、必要な事項が定められた。

○「福島県立医科大学談合情報処理要綱」の制定について

(平成31年3月8日制定・平成31年3月8日施行)

法人が契約締結のために実施する又は実施した入札において、談合に関する情報があった場合の対応について定められた。

○「公立大学法人福島県立医科大学情報セキュリティ委員会要綱」の一部改正について

(平成19年6月27日制定・平成31年3月15日施行)

情報セキュリティ体制強化のため、情報セキュリティ委員会の構成員に会津医療センター附属病院医療情報部長が加えられた。

○「福島県立医科大学医学部履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年3月20日施行)

第4学年の進級判定の見直し及びその他所要が改正された。

○「福島県立医科大学医学部履修規程に関する教授会申合せ」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年3月20日施行)

第4学年の進級判定の見直し及びその他所要が改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学安全保障輸出管理規程」の制定について

(平成31年3月27日制定・平成31年3月27日施行)

本学において、学術研究の健全な発展に配慮しつつ、輸出管理を適切に実施するために必要な事項が定められた。

○「公立大学法人福島県立医科大学安全保障輸出管理実施細則」の制定について

(平成31年3月27日制定・平成31年3月27日施行)

本学における輸出管理の事務手続きに関し、必要な事項が定められた。

○「公立大学法人福島県立医科大学職員給与と規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

附則(技能労務職給料表適応者の経過措置)等が改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学成果有体物取扱規程」の一部改正について

(平成25年9月1日制定・平成31年4月1日施行)

知的財産管理オフィスが廃止され、所管が医療研究推進戦略本部が設置された。

○「PET 機器の研究利用にかかる実施要綱」の一部改正について

(平成26年1月1日制定・平成31年4月1日施行)

(別表)第7条関係の機器使用料金が改正された。

○「福島県立医科大学附属病院コンセプト検討会運営要綱」の一部改正について

(平成30年7月1日制定・平成31年4月1日施行)

コンセプト検討会における構成員が見直された。

○「福島県立医科大学附属病院プロトコール作成支援会議運営要綱」の一部改正について

(平成30年7月1日制定・平成31年4月1日施行)

プロトコール作成支援会議における構成員の見直された。

○「福島県立医科大学大学院医学研究科長期履修に関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

長期履修の資格及び期間等が改正された。

○「福島県立医科大学附属病院臨床研究管理部業務規程」の制定について

(平成31年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

臨床研究管理部の業務分掌に関し、必要な事項が定められた。

○「福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程を担当する教員の資格に関する内規」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

研究指導科目の副指導者の要件が明確にされた。

○「公立大学法人福島県立医科大学託児所運営要綱」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

託児所を利用しようとする者は、申込書と併せて託児を要することが確認出来る書類を提出することが規定される等その他所要が改正された。

○「福島県立医科大学入学者選抜情報開示要綱」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

試験問題の解答又は回答例又は出題の意図が開示項目に追加された。

○「公立大学法人福島県立医科大学科学研究費補助金等の交付前使用に係る立替に関する要綱」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

科研費等の科学研究費補助金について、「交付内定」をもって、研究者からの立替申請がなくても立替払いができるよう学内で一括処理を行うことに改正された。

○「福島県立医科大学附属病院の副病院長に関する規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

附属病院副病院長の職務を見直し等が改正された。

○「県外における福島県「県民健康調査」甲状腺検査交付金交付要綱」の一部改正について

(平成24年6月24日制定・平成31年4月1日施行)

交付申請書の手続き等について、詳細に規定される等が改正された。

○「福島県立医科大学附属病院診療録管理要綱」の一部改正について

(平成23年1月1日制定・平成31年4月1日施行)

診療録の貸出・閲覧時間及び受付時間が改正された。(第16条)

○「福島県立医科大学附属病院における臨床研究法に基づく臨床研究実施規程」の一部改正について

(平成30年7月1日制定・平成31年4月1日施行)

臨床研究法施行規則に定められた、実施計画の厚生労働大臣への提出後の病院長への承認に関する手続きの改正、及び当院に影響の乏しい実施計画の変更に関する取扱が明記された。

○「公立大学法人福島県立医科大学役員報酬規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

現行の役員報酬(基本給月額)に係る減額措置の特例期間を平成31年4月1日から平成33年3月31日までの2年間と改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

家族性腫瘍の遺伝学的検査料29種が追加される等が改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・平成31年4月1日施行)

本院及び会津医療センターに勤務する臨床研修医の超過勤務の支給等について規定された。

○「福島県立医科大学附属病院臓器移植適応評価委員会設置要綱」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年5月1日施行)

委員長の選任方法等について改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学医療機関等の医師確保に対する支援に関する要綱」の一部改正について

(平成18年4月26日制定・令和元年5月1日施行)

「医師確保の支援に関する依頼書」様式(第5条第1項関係)の、「医大処理欄」・「所属」に新しい所属等が追加された。

○「福島県立医科大学医学部教育評価委員会規程」の制定について

(令和元年5月13日制定・令和元年5月13日施行)

医学教育に関するデータの収集・分析・評価を行い、教授会、教務委員会、入試委員会、カリキュラム委員会等に改善すべき事項を進言していくことに関し必要な事項が定められた。

○「福島県立医科大学附属病院総合医療情報システム運用管理要綱」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年5月15日施行)

外部機器の取扱について「福島県立医科大学附属病院総合医療情報システムに関する外部機器取扱手順書」によることとする等が改正された。

○「福島県立医科大学大学院研究生に係る授業料免除内規」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年5月15日施行)

免除の対象(第2条)等が改正された。

○「福島県立医科大学医学部履修規程に関する教授会申合せ」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年5月15日施行)

再試験実施回数の制限及びその他所要が改正された。

○「福島県県民健康調査「健康診査」小児健康診査交付金交付要綱」の一部改正について

(平成23年12月8日制定・令和元年5月30日施行)

第1号様式において、提出時に必要な書類の確認項目等が追加された。

○「福島県県民健康調査「健康診査」小児健康診査検体検査実施要領」の一部改正について

(平成28年6月28日制定・令和元年5月30日施行)

受診率が年々減少傾向にあることから、関係機関へ交付する単価を増額する等が改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年6月1日施行)

法人の内部組織に、国際連携戦略本部が設置された。

○「公立大学法人福島県立医科大学国際連携戦略本部要綱」の制定について

(令和元年6月1日制定・令和元年6月1日施行)

公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程の改正により令和元年6月1日付けで、国際連携戦略本部が設置されたことから、具体的な組織及び業務内容が定められた。

○「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年6月1日施行)

自由診療に関する諸料金のうち、「呼吸器外科領域における da Vinci Si Surgical System を用いたロボット支援手術の縦隔腫瘍手術」について、施設基準の届出により診療報酬の保険適用となったことから、当該料金規程が削除された。

○「公立大学法人福島県立医科大学研修歯科医就業規則」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年6月18日施行)

超過勤務手当の支給について規定された。

○「福島県立医科大学医学部教員の採用及び昇任選考規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年6月19日施行)

規程上、明文化されていなかった曖昧な記載が改められた。

○「医学部教員（准教授、講師）の採用及び昇任の手続きについて」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年6月19日施行)

機関別認証評価の評価項目となっている教員評価について、入力率向上のため、講師以上の任用・昇任等を内申する前提として、被内申者の教員評価ベースへの自己評価の入力を義務づけることが追加された。

○「医学部教員（助教、助手）を任期の定めのない教員に移行する際の手続き等について」の一部改正について

(平成24年11月21日制定・令和元年6月19日施行)

機関別認証評価の評価項目となっている教員評価について、入力率向上のため、講師以上の任用・昇任等を内申する前提として、被内申者の教員評価ベースへの自己評価の入力を義務づけることが追加された。

○「福島県立医科大学医学部履修規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年6月19日施行)

第4学年の進級判定の見直し及び卒業認定評価対象科目が変更された。

○「公立大学法人福島県立医科大学国際交流室要綱」の廃止について

(平成28年4月1日制定・令和元年6月30日施行)

令和元年7月1日付けで新たに「国際交流センター」が設置され、国際交流室は廃止となるため、令和元年6月30日付けにて廃止された。

○「公立大学法人福島県立医科大学広報コミュニケーション室要綱」の一部改正について

(平成28年4月1日制定・令和元年7月1日施行)

広く継続的に情報を発信するニーズがある、3学部(看護学部は広報委員会が存在するため広報委員長の指名とする)、病院、ふくしま国際医科学センターの教員が室員に追加される等が改正された。

○「公立大学法人福島県立医科大学企画広報戦略本部要綱」の一部改正について

(平成26年4月1日制定・令和元年7月1日施行)

企画広報戦略本部の業務から、国際交流に関することが削除された。

○「公立大学法人福島県立医科大学国際交流センター要綱」の制定について

(令和元年7月1日制定・令和元年7月1日施行)

公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程の改正により、7月1日付けで国際交流センターの具体的な組織及び業務内容等が定められた。

○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について

(平成18年4月1日制定・令和元年7月1日施行)

国際交流センターが設置された。

○「公立大学法人福島県立医科大学特定基金要綱」の廃止について

(平成23年3月31日制定・令和元年7月11日施行)

「福島がん研究基金」は、創設から現在まで全く活用しておらず、今後も活用する予定がないことから廃止された。

○「福島県立医科大学助産師養成課程設置準備委員会設置要綱」の制定について

(令和元年7月12日制定・令和元年7月12日施行)
委員会の組織及び運営に関し、必要な事項が定められた。

○「福島県立医科大学附属病院臨床研究協力支援事業要綱」の一部改正について

(平成19年9月21日制定・令和元年7月17日施行)
事業費の配分時期が整理されるとともに、該当する診療科や配分する関連部署が明記された。

役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会

■役員会

【平成31年2月27日 第12回役員会】

○公立大学法人福島県立医科大学臨床研修医就業規則の一部改正について

臨床研修医の所定労働時間外の勤務に係る規程の改正について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○平成30年度決算見込み(第2回)について

法人全体の当期総利益は、マイナス6億9千6百万円の決算見込みとなること等について報告された。

【平成31年3月27日 第13回役員会】

○役員報酬規程の一部改正について

県議会定例会において、「知事等の給与の特例に関する条例」が可決したことから、役員報酬規程を県の特別職に準じて改正することについて審議が行われ、原案のとおり承認された。

○第1回内部統制委員会の審議結果について

第1回内部統制体制の整備状況及び内部統制委員会の今後の取組について審議された結果について報告された。

【平成31年4月24日 第2回役員会】

○2020年度以降の入学式の開催場所について

2020年4月の入学式を県文化センターで開催することについて、3月の医学部教授会、看護学部教授会、医学研究科委員会及び看護学研究科委員会において説明し、了承を得たことについて報告された。

【令和元年5月29日 第3回役員会】

○公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程の一部改正について

諸料金の一部削除に係る規程の改正について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○国際連携戦略本部について

6月1日付けで設置される国際連携戦略本部の目的、組織等及び業務内容について報告された。

【令和元年6月26日 第4回役員会】

○公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程の一部改正について

国際交流センターの設置等にもなう規程の改正について審議が行われ、原案のとおり承認された。

○国際交流センターについて

7月1日付けで設置される国際交流センターの目的、組織及び業務内容等について報告された。

【令和元年7月31日 第5回役員会】

○助産師養成施設に係る基本構想について

7月11日に県から公表された「助産師養成施設に係る基本構想」の概要について報告された。

■経営審議会

【平成31年3月8日 平成30年度第4回経営審議会】

○平成31年度法人予算案について

平成31年度の法人予算案について諮られ、原案のとおり承認された。

【令和元年 6 月 2 4 日 令和元年度第 1 回経営審議会】

○平成30年度決算(案)について
平成30年度の決算案について諮られ、原案のとおり承認された。

■教育研究審議会

【平成 3 1 年 3 月 8 日 平成 3 0 年度第 4 回教育研究審議会】

○平成31年度年度計画案について
平成30年度計画の第3四半期までの進捗状況と新年度事業の財源、組織定数の確保状況を踏まえて作成された平成31年度年度計画案について審議され、原案のとおり承認された。

○寄附講座の設置について
「肥満・体内炎症解析研究講座」及び「運動器骨代謝学講座」の設置について報告された。

【令和元年 6 月 2 4 日 令和元年度第 1 回教育研究審議会】

○保健科学部(仮称)入試概要(案)について
保健科学部(仮称)の入試概要について審議され、原案のとおり承認された。

○寄附講座の廃止について
「腸内環境病態医療学講座」の廃止について報告された。

■医学部教授会

【平成 3 1 年 3 月 2 0 日 定例教授会】

○組換えDNA実験安全委員会委員の推薦について
次のとおり選出され、学長に推薦された。
和栗 聡 教授(解剖・組織学講座)
松岡 有樹 教授(自然科学講座)
関口 美穂 教授(実験動物研究施設)
下村 健寿 教授(病態制御薬理医学講座)

苅谷 慶喜 准教授(生化学講座)
加藤 成樹 講師(生体機能研究部門)
福田 俊章 准教授(人間科学講座)
仲村 究 講師(感染制御医学講座)

○研究用微生物安全管理委員会委員の推薦について

次のとおり選出され、学長に推薦された。

錫谷 達夫 教授(微生物学講座)
金光 敬二 教授(感染制御医学講座)
各務 竹康 准教授(衛生学・予防医学講座)
加藤 成樹 講師(生体機能研究部門)
関口 美穂 教授(実験動物研究施設)

○2019(平成31)年度医学部教務委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

木村 隆 教授(外科研修支援担当)
松岡 有樹 教授(自然科学講座)
小山 明彦 教授(形成外科学講座)
大平 哲也 教授(疫学講座)
橋本 優子 教授(病理病態診断学講座)
関根 英治 教授(免疫学講座)
錫谷 達夫 教授(微生物学講座)
藤野 美都子 教授(人間科学講座)
河野 浩二 教授(消化管外科学講座)
室野 重之 教授(耳鼻咽喉頭科学講座)
伊関 憲 教授(救急医療学講座)
風間 順一郎 教授(腎臓高血圧内科学講座)
亀岡 弥生 教授(医療人育成・支援センター)
大谷 晃司 教授(医療人育成・支援センター)

※平成31年4月17日の医学部定例教授会において、錫谷教授が人事異動により委員から外れることに伴う追加の委員及び看護学部教務委員の医学部教務委員就任者について、次のとおり選出された。

(追加選出)

柴田 陽光 教授(呼吸器内科学講座)
下村 健寿 教授(病態制御薬理医学講座)
(看護学部教務委員の医学部教務委員就任者)
太田 昌一郎 教授(生命科学部門)

○2019(平成31)年度医学部入試委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

和栗 聡 教授(解剖・組織学講座)
 大平 哲也 教授(疫学講座)
 横山 斉 教授(心臓血管外科学講座)
 小山 明彦 教授(形成外科学講座)
 黒澤 伸 教授(麻酔科学講座)
 岡田 達也 教授(自然科学講座)、
 大谷 晃司 教授(医療人育成・支援センター)
 柴田 陽光 教授(呼吸器内科学講座)
 福島 哲仁 教授(衛生学・予防医学講座)
 石川 徹夫 教授(放射線物理化学講座)
 池添 隆之 教授(血液内科学講座)
 室野 重之 教授(耳鼻咽喉頭科学講座)
 伊藤 浩 教授(放射線医学講座)
 開 康一 教授(総合科学教育研究センター)
 松岡 有樹 教授(自然科学講座)
 和田 郁夫 教授(細胞科学研究部門)

※令和元年6月19日の医学部定例教授会で岡田教授、福島教授が教育関係の委員とは兼務することのできない教育評価委員に選出された。後任の委員として令和元年7月17日の医学部定例教授会において、次の2名が選出された。

小林 和人 教授(生体機能研究部門)
 西田 満 教授(生化学講座)

【平成31年4月17日 定例教授会】

○附属学術情報センター運営委員会委員の推薦について

委員退任による欠員1名について次のとおり選出され、学長に推薦された。

開 康一 教授(総合科学教育研究センター)

【令和元年6月19日 定例教授会】

○教育評価委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

岡田 達也 教授(自然科学講座)
 福島 哲仁 教授(衛生学・予防医学講座)
 丸橋 繁 教授(肝胆膵・移植外科学講座)

■看護学部教授会

【平成31年3月19日 定例教授会】

○組換えDNA実験安全委員会委員の推薦について
 次のとおり選出され、学長に推薦された。

森 努 准教授(生命科学部門)

○研究用微生物安全管理委員会委員の推薦について
 次のとおり選出され、学長に推薦された。

森 努 准教授(生命科学部門)

【令和元年5月21日 定例教授会】

○一般倫理委員会委員の推薦について
 次のとおり選出され、学長に推薦された。

和田 久美子 教授(家族看護学部門)

編集発行

公立大学法人福島県立医科大学

事務局 企画財務課

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

TEL 024 (547) 1013 / FAX 024 (547) 1991